

令和2年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290200013		
法人名	医療法人 慶成会		
事業所名	グループホーム かわばた		
所在地	〒036-8017 青森県弘前市大字西川岸町6-1		
自己評価作成日	令和2年8月27日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

療養型から転換のグループホームなので、1ユニット6名、2ユニット12名で目配りも届き家庭的な雰囲気の中で楽しく生活しています。どちらのユニットの利用者さんもお互いを知っているので、殆ど毎日仲良く合同でレクを楽しんでいます。ホームも町の中心部にあるので、季節毎のイベントに参加したり、見物したり地域との関わりも出来てきています。又、イベントにより四季の移り変わりもわかって生活にメリハリがあります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年9月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

市内の中心部に事業所があり、周辺にはお城、飲食店、デパート等様々な場所があり、気軽に外出ができ、四季の変化がいつでも感じられる。事業所内も四季を感じられるよう装飾で工夫されレクリエーション活動に多く取り組まれ、現在は新型コロナウイルスの影響もあり外に出るのは難しい中で、利用者と職員が家庭的な雰囲気の中楽しんでいる。又、食事も利用者からの要望や季節に合った美味しい物を提供され、一人一人の食への楽しみにも繋がっている。事業所理念を基に、管理者、職員が日頃からの関わりを大事にし、心身共に安心した生活を送れる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は朝の申し送り時に理念を唱和してから仕事に臨み理念を実践に繋げている。	「心身共に安心した生活を送れるよう、笑顔と思いやりの心で支援します」である理念を毎朝唱和され、管理者、職員は理念に基づいて話し合いながら日々取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で交流が途絶えている状態ではあるが途切れないよう連絡を行う。昨年交流できた近くの幼稚園とは交流が叶わず、他地域の幼稚園とは交流ができています。利用者様の誕生日に近隣の飲食店で食事をし顔なじみになっています。	新型コロナウイルス感染症の影響によりほとんど交流は出来ていないが、職員とのつながりもあり他地域の幼稚園との交流や近隣の飲食店で食事をして顔馴染みとなっている。以前は地域の幼稚園、地域広場でのイベントに地域の一員として日々交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事等のお知らせなどをしていますが地域の人々の参加には至っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し行政、民生委員、ご家族、地域の協力者から活動報告、課題に対しての意見、アドバイスを頂き職員と共有して活用するように努めています。	2か月に1回運営推進会議を行っている。行政、民生委員、地域の協力者、同業者でもある家族が参加され、課題に対しての意見やアドバイスを取り入れサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の記録の送付、事業所内の疑問、問題等で市役所に出向いたり、電話等で連絡、相談をしています。市役所側からも助言等の対応をしていただいています。	市役所担当者は年1回事業所に来られているが日頃から電話での連絡や市役所に出向き相談をしている。事業所からだけでなく、市役所からも連絡を定期的にもらい協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での勉強会、委員会を設置し2～3ヶ月に1回虐待委員会を開催しています。ホーム独自のマニュアルを作成し取り組んでいます。	2、3ヶ月に1回事業所内で委員会を中心に勉強会を行っている。勉強会やマニュアルを基に職員一人ひとりが声掛けから意識されている。又、月に1回の小会議やその都度話し合い不適切なケアにならないよう取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会等には積極的に参加しています。虐待については日々の介護の中で常に話し合いをもたれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人の講習受講の職員がいます。内部研修も行っています。日常生活自立支援事業については個々に応じた対応をするように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学時、入所時には十分な説明をし納得していただいています。不安や疑問点等は面会時、電話等でも随時、対応させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望に耳を傾け、管理者、職員、推進会議で意見、要望について助言を頂き、共有して運営に反映させています。	新型コロナウイルス感染症の影響で面会制限があるため家族からの意見等は意見箱の設置、電話での対応をしている。利用者の方からは普段の生活の中で要望や意見を聞き、そこで出た内容についてはその都度話し合い、運営に反映されている。又、運営推進会議でも話題にし外部者へ表せる機会が設けられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の時や日常の話し合いの中で意見、提案を聞き反映させています。	普段から意見を話しやすい環境、関係、雰囲気作りがなされている。管理者は会議の中や日頃の会話の中から提案、意見を聞き取り、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望等を聞き話し合って代表者に伝え働きやすい環境を整備するよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修の機会を確保し積極的に資格取得に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所と交流しサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活が送れるよう本人の思いを傾聴し家族からの話を参考にしながら不安を取り除き信頼を得るよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族等の話を良く聞き思いを理解し出来る限り要望に添うよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、家族の話を良く聞き双方に少しでも満足して貰えるよう努めています。在宅でサービス利用していた方は情報提供を頂く等の連携をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホールにて雑談したりレクリエーションに参加したり時には近隣を散歩したりして楽しみを共有するように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に一回の施設の新聞の発行にて施設及び本人の近況を伝えています。又、面会時に近況を伝えたり状態変化時、電話連絡をし安心を得られるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人の面会時は居室等で楽しく会話できるよう配慮しています。買い物等の外出も出来るかぎり対応するよう努めています。	現在新型コロナウイルスの影響で面会制限もあり、外出することは難しいが面会制限前までは、馴染みの知人と楽しく会話ができるよう環境面の配慮や馴染みの場所、利用者の意向を確認し、関係が途切れないよう継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	のっちゅうの離床に努めゲーム、レクリエーション等、楽しい時間を共有することでお互いの存在を分かり合っています。利用者様同士の誤解から来るトラブルのないよう注意、見守りをします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援するよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添うように本人と話し合いながら要望を把握するよう努めています。	利用者一人ひとりの希望を含め、普段の生活の中での会話から引き出し意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し本人からの聞き取りや家族、周囲の方々からの情報。また、これまでのサービス利用があった所からの情報提供を頂き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の担当者を決めています。一人一人の状態を具体的に把握するよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望や身体の状態を担当者等を交え他職員の意見も反映させ作成している。	定期的に行われる会議や普段の生活の中で、管理者、担当職員、利用者で話し合い介護計画を作成されている。家族に関しては、遠方にいる方が多く、電話で確認し意見等を取り入れている。	センター方式等のツールは単に生活歴を知るためだけでなく、今まで暮らしてきた生活を職員全体で意識することで、利用者の生活にも活気が帯びる。今後、ツールを使い生活歴を知ってもらい意見やアイデアを取り入れ、本人らしい生活を支援できる介護計画を作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士、気づいたことを話し合い、申し送りノートなどを活用しながら情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化を掴む様にし家族とも連絡を取り合っています。主治医への連絡、居宅への連絡等も密にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	体調や安全を考慮し近隣の商店への買い物、散歩、こども園の夏祭り等に参加できるよう支援しています。今年はコロナ感染予防のため外出を控えているので必要な物品は職員が代理購入して支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の要望を大切に受診介助にてかかりつけ医へ情報提供を行い適切な医療を受けられるよう支援しています。	面会制限前は家族協力の下、かかりつけ医に受診されていたが、現在も利用者、家族の希望を大切に、かかりつけ医を受診し家族の代わりに職員が付き添いしている。又、看護師も常勤であるため安心して医療を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に情報提供し相談をして個々の利用者が適切な受診や看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より情報交換をし連絡を取り合える良い関係づくりが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアは行っていないことを入所時に書面、口頭で説明をしています。早い段階で家族、地域関係者と共に支援していくことを理解して頂いています。	重度化になった場合や終末期ケアは開設当初から行っていない。入居時にも説明しており、重度化になる場合は利用者、家族、かかりつけ医、ケアマネジャーと相談した上で決めることとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練で応急処置等の講習は定期的に行っています。職員全員が実践力があるとは言いきれませんが実践力向上に努めます。又、看護師がいるので指示を受け対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練、消防署届け出の訓練を年2回実施。ホームの災害対策のマニュアルの整備。地域の協力者と警備会社には自動的に連絡が行くシステムになっています。	月1回避難訓練実施と年2回消防署届け出の訓練を行っている。川が近くにあるため、水害時も想定して避難場所を変えている。警備会社も付いており、地域の協力者と自動的に連絡が行くシステムになっているため地域との協力体制もしっかりされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての利用者に偏りなく公正中立な対応するように努めています。	利用者一人ひとりに対して声掛け、言葉使いには十分に配慮されている。又、居室やトイレ等の扉やカーテンを毎回閉め、プライバシーを損ねない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手の寄り添い思いを傾聴する。自己決定できるような雰囲気づくりに努めます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先の業務を心掛けています。個別ケアのして対応、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けをしアドバイスをしながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材、行事食を取り入れ提供しています。毎日の当番を決め食器ふき等を手伝って頂いています。	献立は会話の中から要望を聞き、利用者と職員で嗜好を考え食事が楽しみになるよう立てている。提供する食材は業者へ依頼するか職員が選び購入され、力量を見ながら利用者と一緒に料理したり、準備、片付けを楽しんで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事量をチェック記入しています。なるべく多く水分補給して頂けるよう常に声掛けをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。支援が必要な方には声掛けをしたり介助の支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立困難な方は排泄チェック表を記入し排泄誘導をしたりと、その方に合った介護支援を行っています。自尊心に考慮した対応を心掛けています。	事業所独自の排泄表を使用し、さりげない声掛けでトイレへ案内し、自尊心に考慮しつつ一人ひとりに合わせた支援をされている。又、便秘予防として水分量にも配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期受診時、情報提供を行っています。起床時の水分補給(コップ一杯の水)や軽体操を行っています。毎日の排便の有無の確認に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回入浴をしています。入浴にこだわり(順番など)がある方には希望に合わせて入浴できるよう支援しています。その時の状態で入浴できないときはシャワー浴、足浴、清拭をしています。	日常的な入浴の他、外出前、通院前、利用者の希望する時間、タイミングに合わせ臨機応変に支援されている。又、家庭的なお風呂でゆっくりと入浴ができる空間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールでテレビを観たり、居室で休憩したりと自分のペースで過ごしていただいています。季節に合わせて寝具の調節、定期的なシーツ交換を行い居室の温度、換気にも気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の名前、日付、薬の目的、薬の飲み忘れや間違いがないよう注意し必ず確認しながら服薬介助に努めています。服薬後の状態にも注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭きや朝の居室の拭き掃除など毎日の役割を持つことで充実感を感じて貰えるよう支援しています。レクリエーションはやりたいものを聞いてから行い気分転換を図って頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足等の施設の行事、ねふた祭り等に地域の行事等に参加できるよう支援しています。家族の方が受診に連れて行って下さるときには気分転換になるよう時折、外食などをお願いしています。	現在は新型コロナウイルスの影響でほとんど外出支援はできていないが、市内の中心部に事業所があり、周りには城、飲食店、デパートと四季をいつでも感じられ、気軽に外出支援ができる場所に位置している。又、近隣市街に外出されたりと遠くまでも日常的に外出支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者のお金はホームで管理していますが行事、外出の時には一緒に出掛け利用者様には買い物の楽しみを支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望するときは出来るだけ援助、支援します。電話は施設の物を自由に使用していただきます。手紙は切手購入、投函の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が分かるよう月ごとにホーム内の装飾、写真を掲示しています。夏にはエアコン、冬には暖房の温度調節に配慮しています。	新型コロナウイルスの影響で外に出ることはできないが、事業所でのレク活動を多くし、四季の変化に合わせて装飾を楽しまれている。談話室は利用者の笑顔で溢れ明るい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも気のあった同士で並んで過ごせるよう長椅子を設置しています。個人用の椅子を置いている利用者様もいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの小物、家族の写真を飾ったり、仏壇をおいたり心地よく過ごせるよう支援しています。	自宅で使っていた馴染みの物や仏壇等利用者本人が好きな物を居室に置き、居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階が生活の場なので安全に気をつけて、本人が安心して暮らせるよう努めています。		